



希望記事

●東日本大震災後の、被災地の自治体職員の現状が知りたいです。まだまだ復興の途上で記事を作るどころではないとは思いますが、自ら被災しながら行政サービスを続ける職員の声が聞きたいです。

●震災に遭われた市町村で働いておられる職員の体験談（災害後において、役場職員として気を付けることや心構えなど）。

●震災から数ヶ月経ちましたが、まだまだ支援が必要な状況の方も多くおられると思います。地震列島日本に住む私たちには、避けては通れないとはいえ、今回の震災はあまりに大きな犠牲だったと思います。この犠牲を無駄にせず、私たちが今後の地震・津波対策として少しでもできることを教えてほしいです。

前回に引き続き、今回も東日本大震災に関する記事、情報を望む声が多く寄せられました。特に、自らも被災しながら職務にあたらなければならぬ自治体職員の方の体験談は、同じ自治体職員として非常に関心の高いところだと思います。

今号のCoverage「災害と向き合う「災害ボランティア」ではボランティア活動をされた方以外に、被災地で日々奔走されている職員の方への取材記事も掲載しています。何かご参考になれば幸いです。

なお、当協会では被災地支援の一環として、来年2月「退職者災害ボランティアシンポジウム」を開催予定です。具体的な内容につきましては今号の裏表紙に掲載していますので、ぜひそちらもご覧ください。

●家族関係に力を入れて欲しいです。

●出産、育児情報もとりあげてほしいです。

ライフプランにおいては「家族」も重要な構成要素です。本誌では毎号Familyのコーナーにおいて、子育て、夫婦関係、介護など家族にまつわるさまざまな問題を取り上げています。もちろん今後も取り上げていく予定です。

なお、出産については96号（2009年10月号）Coverageの「お産を考える」をテーマに取り上げていますので、そちらをぜひご覧ください。

●仕事をきて、子どももない場合、地域に知り合いが少ないのは女性も同じかと思えます。「定年後の人間関係（女性編）」として、職場以外の交友関係の広げ方についての記事を載せて欲しいです。

確かに、地域との関わりは子どもの有無によって大きく違ってきますね。お子さんがいらつしゃれば、学校関係などを通じて地域と関わる機会も多くなるでしょう。

定年後のライフプランを考えるにあたって、人間関係は重要な要素です。仕事一辺倒だった男性の地域関係の希薄さばかりをクローズアップしがちですが、女性も同様であるということを念頭に入れておきたいと思っています。

●シニア旅行の特集をお願いします。

定年退職後、現役時代は行きたくても行けなかった長期の旅行を楽しみにされている方も多く聞きます。シニアならではの問題があるかどうかも含めて、一度検討してみたいと思います。

●一般的なサラリーマンが今後、貯蓄や投資を始める際の導入知識について（「国債」や「投資信託」など）。

家庭経済において一層の自助努力が求められる時代、貯蓄や投資など金融知識は必須となってきたのかもしれない。その意味で、本誌では96

号（2009年10月）から3号連続で、ファイナンシャルプランナー竹本隆之氏による「金融商品の選び方・金融商品広告の注意点」を掲載しています。こちらをぜひご参考になさってください。

その他ご意見

- 色々なタイプの「困った上司」「困った同僚（部下）」への対処法などが役に立ちそうです。
- 精神的な障害を持った方（うつ等）と仕事をするときの注意点。このような病気にならないための対策。
- 公務員の雇用に対して、同じ立場で就業している全国の公務員仲間の生の声を聞きたい。人員削減や給与のカット、さらには時間外勤務のサービス状態。一生懸命やっている私たちの人格は無視されている感が否めない。モチベーションのあげ方や意見など、アンケートをとったりして本当の気持ちを聞きたいです。

人間関係をはじめさまざまな課題、問題があるのはどこの職場も同じだと思います。特に財政的に苦しい状況にある自治体の現場では、職員の方の負担が大きいです。ライフプラン情報誌である本誌の中の一つのテーマとして、可能な限り取り上げていきたいと思っています。



● 巻頭の神野直彦先生「**「分かち合い」の社会を目指して**」がとてもよいと感じました。日々、公務にあたる中で、また個人生活においても、昨今何が足りないと感じながらもいったい何が足りないのか、上手く言葉で表現できない思いを抱えておりました。まさにこの記事で神野先生がおっしゃっている二つの環境破壊であったり、Earningが満たされてもHappinessが欠如している限り真の満足が得られないということをもやもやと考えていたと気づきました。

震災に遭い、こんな時代の今だからこそこのような記事を取り上げてくださった協会職員様のセンスに感激です。神野先生の著書紹介もありましたので早速あたってみました。

● 神野直彦先生は自治大学校で講義を聴いてからファンです。今回の記事は、インタビュアーの方が上手に先生のお考えを引き出しておられ、とてもよかったです。再度、何かのテーマで先生の話を取り上げてほしいです。

● 私は今年で財政課7年目となりますが、巻頭で登場の神野先生は財政学の大変な大御所でもあります。全国の財政マンが必読の月刊地方財務でも最近読んでおきたい財政本として「**財政のしくみがわかる本**」（岩波ジュニア新書）が複数の学者さんから推薦されていました。社会の変わり目には必ずそれに見合った哲学が必要だと思います。大森彌先生と並んで読書をお勧めしたい先生です。

神野直彦先生のインタビュー記事については、多くの通信員の方から高い評価をいただきました。

●藤川太さんの「ライフプランニング講座 住宅を購入するときのライフプラン」が参考になりました。結婚したらマイホームを買うのは当然のことと考えていましたが、賃貸という選択肢もあるんですね。目からウロコでした。

藤川先生の説明はわかりやすく、的を得ていると思います。当協会職員の中にも、『サラリーマンは2度破産する（朝日新書）』（同氏著）を読んで、ライフプラン計画表の考え方を学んだ者がいます。読者の皆さんも一度読んでみられるといいかもしれません。

●「協力雇用事業所というボランティア活動」の話に非常に感銘を受けました。中小企業の社長さんで、自分の食いぶちを稼ぐだけでなく大変なことなのに、事業の中に更生という活動を取り入れて、なおかつ事業としてやっていけるのはすごいと思いました。誰にでもできることではなく、野口さんという人のエネルギーがすごいと感じました。今後もこういった事例を取り上げていただけると、読んでいて、自分も頑張らねば！という気持ちになります。

私も全く同感です。野口さんご一家と野口石油の従業員の方々の非行少年に対する姿勢、協力雇用事業所としての取り組みには大いに心を打たれました。このような大人がいることで、どれほどの少年たちが救われているのか。非行少年の更生の陰には、それを支える大人たちの並々ならぬ苦勞と深い愛情があるのだということを思い知らされました。

●年金制度については、定期的に掲載され、いつも興味深く拝見しております。今後も流動的に年金制度の情報をお願いいたします。

年金は定年退職後の生活の大きな柱となるもの。その仕組みや制度の改

定については、今後も継続的に取り上げ、情報提供していきます。

●「お金も時間もかけずに筋力をつける！」は、とてもすばらしい内容でした。早速、実践しております。40代後半になると代謝も低く、やるぞと時間をつくってのランニングだけでは、バランスのいい筋力（身体）づくりはできませんでした。これからは、川村式に取り組み、まず3カ月後を楽しみに、肉体改造をしていきます。

●いつも楽しみに拝読しています。特に今回の「お金も時間もかけずに筋力をつける！」は目からウロコでした。わずかな時間も上手に活用し、体型を維持していきたいと思えます。

若い頃と同じ量しか食べていないはずなのに、蓄積してくるぜい肉。加齢によって基礎代謝が低下してくることが、その原因の一つです。基礎代謝は筋肉量と関係しています。そう考えると「筋力をつけなくては！」とは思ってみても、毎日忙しくて時間がない…。

そんな方でも筋力をつける川村先生の手法を早速実践していただけているとは、うれしい限りです。効果の有無についても、ご報告お待ちしております。



●「退職者への質問状」はとても参考になりました。自分が定年退職をしたら何をしようかと、40代になり考えることがあります。夢を現実させるためには計画性を持つことが必要だと感じました。これからも色々な方を紹介してください。

106号では定年退職後、喫茶店を開店された元函館市職員の方をご紹介しました。定年退職後、第二の人生をいかに有意義に過ごすか、そのための準備は定年前から始まっています。本誌では今後も、第二の人生を謳歌されているさまざまな方を順次取り上げていく予定です。



●3・11以降の国民意識の沈滞化がとても気になります。各被災地や避難者支援の状況で、ともすると痛ましい状況や悲惨な状況が大きく報道されていますが、それとは逆に、前向きにポジティブに取り組んで成功し、多くの方々に力と希望を与えているような出来事も報じてほしいです。復興に至る道のりは長いでしょう。時間がかかると思いますが、お互いがそういう話題を共有できる事柄・時間をつくりたいものだと考えます。

災害時にはボランティアの支援が復旧・復興の大きな力になります。今回の東日本大震災では、震災直後は悲惨なニュースが多かったものの、最近ではつらく厳しい状況の中から力強く立ち上がり、たくましく復興に取り組む人々のニュースも増えてきたように感じます。そのようなニュースは多くの人に希望を与えていることでしょう。今後は、明るいニュースが増えていくことを期待したいものです。

●毎号楽しみにしております。給料がなかなか伸びない中、生活設計をしっかり立てるために非常に助かります。また、お金のことだけではなく、ボランティアなどの生活の質を充実させる記事があるのも素晴らしいと思います。これからも魅力ある記事を楽しみにしています。

●読み応えのある内容で毎号楽しみにしています。通信員となり、6年目になりますが、年ごとに掲載記事の充実が図られているように思います。編集側の「苦労」が読み取れます。今後も、よろしく願っています。

温かいお言葉ありがとうございます。これを励みに今後も皆さんのライフプランの一助となるよう、情報提供に努めていきたいと思えます。